

## もし、庄内川が氾濫したら（続）

2月10日レポートの続きである。中部地方整備局『庄内川水系河川整備計画〔大臣管理区間〕』2008年から、庄内川の災害脆弱性について書いておきたい。

庄内川は恵那市の夕立山（標高727m）に発し、岐阜県内では土岐川と呼ばれる。幹川流路延長96キロ、流域面積1010平方キロの一級河川だ。下流域は濃尾平野の海拔ゼロメートル地帯に位置している。

観測史上最大の洪水（基準地点枇杷島でピーク流量約3500m<sup>3</sup>/sを記録）となった2000年9月の東海豪雨では、一般国道1号・一色大橋の下流右岸において洪水が堤防を越水し、関西本線橋梁から



図 2.1.3 平成12年9月東海豪雨による浸水状況図

一般国道19号勝川付近までの約15キロの長い区間で計画高水位を超過するなど、危険な状態が続いた。また、新川では、新川の洪水と新川洗堰を越流した庄内川の洪水により長時間高い水位が続き、名古屋市西区地内の左岸堤防において約100m破堤し、甚大な浸水被害が発生した。この洪水により、2市5町の約42万人に避難勧告が出され、浸水面積約105平方キロ、浸水家屋約3万4100棟（うち床上浸水約1万5800棟）となった。

庄内川流域の地形を大別すると、瑞浪、土岐、多治見の3つの盆地と溪谷、山地からなる上流域と、低平地のある平野部からなる中下流域となっている。洪水氾濫が発生した場合、この地形特性により、上流域では氾濫する範囲は狭く限定されるが、中下流域では水位が高くなると堤内地盤高よりも高くなり、氾濫流が拡散していくため氾濫区域が広範囲となる。また、中下流域の低平地には名古屋

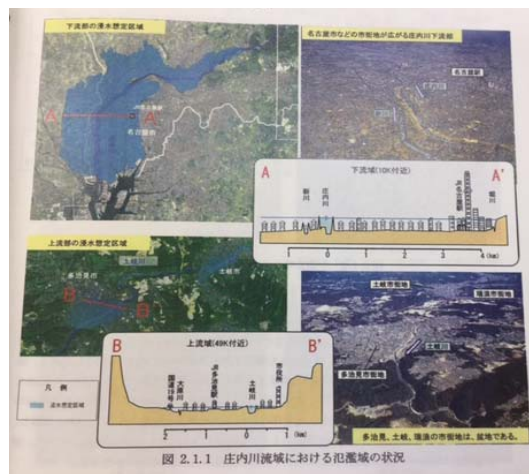


図 2.1.1 庄内川流域における氾濫域の状況

屋市をはじめとした中部圏の中核機能が集中しており、洪水氾濫は当該地域に甚大な被害を及ぼすだけでなく、わが国全体の社会・経済にも大きな打撃をもたらすことになる。

(2016年2月20日)